

富士養鱒場だより

第213号

平成24年2月号

静岡県水産技術研究所富士養鱒場 〒418-0108 富士宮市猪之頭 579-2 TEL:0544-52-0311

FAX:0544-52-0312 E-mail suigi-fuji@pref.shizuoka.lg.jp URL http://www6.shizuokanet.ne.jp/fujimasu/

興津川のアユ遊漁者アンケート調査結果(平成23年度)

昨年度(本誌第209号)に引き続き、県中部の興津川において、アユ遊漁者の意識やニーズを調査しましたので、とりまとめ結果を報告します。なお報告に先立ち、本調査にご協力頂いた興津川漁協並びに遊漁者各位に深謝します。

方法

5～10月に興津川で友釣りをしていた1,200人に官製ハガキを配布し、年代、住所、年券の購入状況、釣獲状況、経費、満足度などのデータを収集しました。

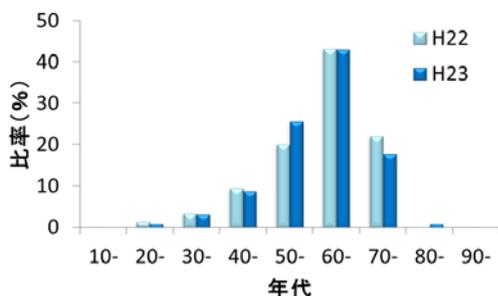
結果

(1) 回収率

33% (397人) から回答が得られました。

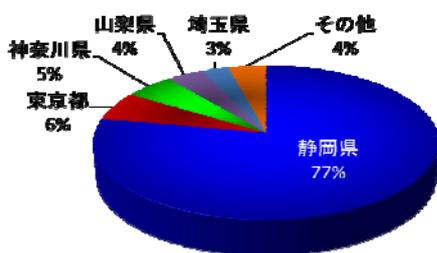
(2) 年代別遊漁者組成

昨年度と同様に、60代の遊漁者が4割強と最も多く、20～30代は少ない状況でした。

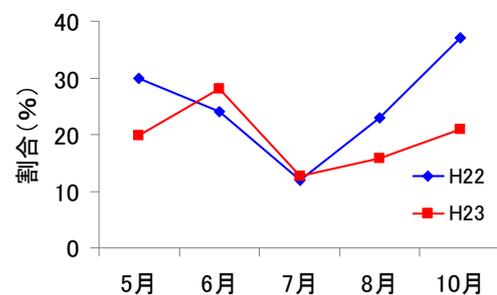


(3) 都道府県別遊漁者組成

昨年度と同様に、4人に1人(23%)が県外遊漁者であり、その大半は首都圏からの来遊でした。

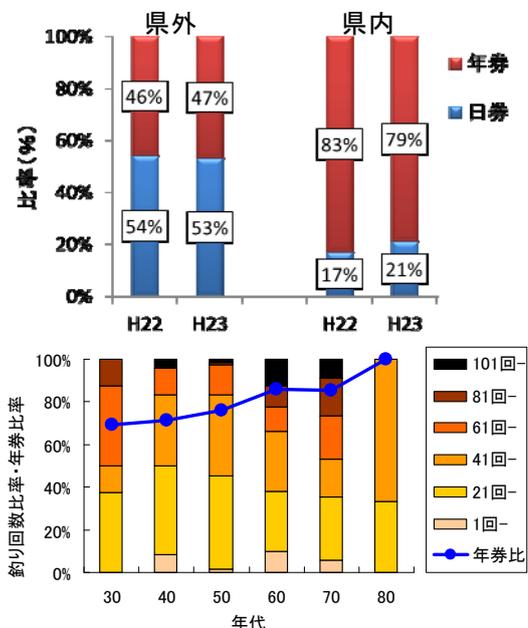


また、県外遊漁者の割合は、7月に最も少なく、解禁当初や10月に高くなりました。県内遊漁者は、興津川の近隣市町で約6割を占めていました。



(4) 年券購入率

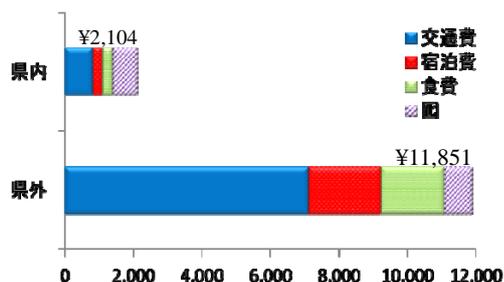
県外遊漁者の47%、県内遊漁者の79%が年券を購入していました。また、年代が高いほど釣り回数が増え、年券比率も増える傾向にありました。



(5) アユ釣り1回あたりの経費

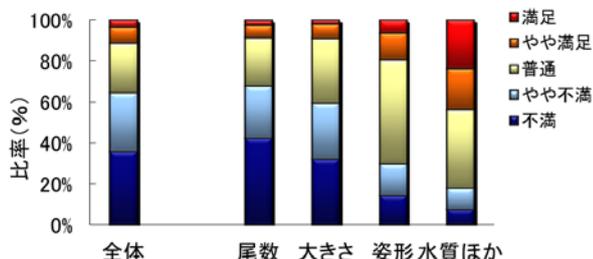
アユ釣り1回あたりの経費は、県内遊漁者が2,104円であったのに対し、県外遊漁者は約6倍の11,851円かかっていました。また、項目ごとにかかった経費を比較すると、餌のみが同じで、そ

れ以外の交通費、宿泊費、食費については大きな差がありました。



(6) 満足度

全体の満足度は、過半数が不満～やや不満と回答しており、尾数と大きさについても同様の回答でした。一方、アユの姿形や環境面である水質ほかについては普通～満足との評価でした。



全体及び4項目（尾数、大きさ、姿形、水質ほか）の満足度を、不満を1、満足を5として5段階で数値化し、全体の満足度と各要因の関連をステップワイズ重回帰分析により検討しました。得られた重回帰式は以下の通りであり、全体の満足度には尾数、大きさ、水質ほかが正の影響を与え、そのうち尾数の影響が最も大きいことが分かりました。一方、アユの姿形については、全体の満足度との関係性は見出されませんでした。

$$(\text{全体満足度}) = 0.6576 \times (\text{尾数}) + 0.2045 \times (\text{大きさ}) + 0.0914 \times (\text{水質}) + 0.0431 \quad (p < 0.001)$$

今後の予定

県外遊漁者の割合などに加え、今年度は新たに経費の支出状況や満足度に与える要因分析も行うことができたことで、遊漁者の意識やニーズの把握が更に進みました。調査最終年度にあたる次年度は、アユ釣りや種苗放流によりもたらされる経済効果や、満足度と釣り回数との関係など、さらに踏み込んだ解析を行う予定です。皆様方のご協力をお願いします。（鈴木勇己・鈴木邦弘）

トピックス

(有)下山養魚場の「天城の大あまご」がしずおか食セレの認定を受けました！

静岡県では、全国や海外に誇りうる価値や特長を備えた農林水産物を、県独自の認定基準に基づいて「しずおか食セレクション（以下、“食セレ”と略記）」として認定しています。

平成23年度は、水産物2品を含む計26商品が新たに認定され、その中に「天城の大あまご」が含まれていました。

「天城の大あまご」は、有限会社下山養魚場（伊豆市）が伊豆の天城山系の清冽な湧水でじっくり育てた全雌三倍体の大型アマゴであり、食セレ初の養殖水産物となります。適度に脂が乗ったその身は薄いサーモンピンク色で甘味があり、刺身や切身として直営食堂のほか地元旅館などで食され、高い評価を得ています。

認定後の反響は非常に大きく、対応しきれないほどの注文が入ったとのこと。当該養魚場の地道な努力が実を結んだ結果と言えると思います。

富士養鱒場では、今後も食セレ認定や六次産業

化を支援していきますので、ご不明な点がありましたらお気軽にご相談ください。（鈴木邦弘）



11月29日の認定式で「天城の大あまご」を持つ下山さん（左）と川勝知事（右）

GAP研修会が開催されました

11月25日に、水産資源課主催のGAP研修会が富士養鱒漁協において開催されました。講師は東京海洋大学大学院の舞田正志教授であり、「養鱒業における品質管理について」と題してGAPの必要性や記録の仕方などについてご教示いただきました。

GAPとはGood Agricultural Practiceの略で、適正農業規範と訳されます。簡単に言えば、安全な農水産物の生産と提供を目的として、可能性のある危害を最小にするための対策や管理を行い、その記録を残し、修正を加えながらより良いものにしていくことです。過剰な対応は不要であり、まずは記録することからはじめることが重要とのことでした。

静岡県には、農水産物の安全性確保及び情報提供のシステムを認証する「しずおか農林水産物認証制度」という地域版GAPがあります。今回の研修を活かしながら、当該制度の取得に向けた業界支援を進めたいと思います。

(鈴木邦弘)



養鱒研修会を開催しました

1月25日に、平成23年度養鱒研修会を富士養鱒漁協において開催しました。会場からの話題提供のあと、東京海洋大学大学院の佐藤秀一教授に「経営にやさしい養鱒用飼料」という題目でご講演いただきました。

近年、飼料価格の高騰により養殖経営が圧迫されていますが、キャノーラ油などの油脂利用によるタンパク質含量の低減、動物性タンパク質から植物性タンパク質への置換、飼料原料中のリンの利用性向上などにより、魚粉への依存を少なくした低価格な養魚用飼料の開発が進められているとのことでした。また、同飼料は環

境水中へのリンや窒素の排出量が削減されるため、環境にも優しいとのことでした。先生の成果が実を結び、飼料として販売されることに期待したいです。

(鈴木邦弘)



富士宮にじますトップブランドの名称「湧幻鱒」に決まる！

富士宮市は、特許庁、関東経済産業局と連携して、平成21～23年度に「知財先進都市支援事業」を行いました。当該事業は、地域資源であるニジマスを活用することで、企業の知的財産面での支援や地域ブランド化を推進していくことを目的としています。

具体的には、養鱒業界を牽引するようなトップブランドの構築、企業連携による新商品開発

のモデルケースの作成、連携体制のあり方に関する検討などで、会場も関係連絡会議の委員を勤めるなど、事業の推進に協力してきました。

2月24日、当該事業の成果発表会が富士宮市民文化会館で開かれ、富士宮にじますのトップブランド「湧幻鱒(ゆうげんます)」が発表されました。富士の豊富な湧水を使いながらゆったりとした環境(飼育密度が10kg/m³以下)で育

てられた魚体重 5kg 以上の超大型ニジマスであり、食用よりも広告塔としての役割が期待されています。当场では、広い池内で悠々と泳ぐその雄姿をご覧になることができます。お近くにお越しの際は是非ともお立ち寄りください。

また、発表会ではニジマスの新商品「リエッ

ト」のお披露目もありました。生産者、食品加工、パッケージ、小売の企業間連携で誕生した商品であり、ニジマスによる企業連携のモデルケースとなりました。今後の販売が楽しみです。

本事業の成果が活かされ、ニジマスを中心とした産業の集積に期待したいです。(鈴木邦弘)

湧幻鱒の名称の由来（発表資料より抜粋）

湧（ゆう）	富士の豊富な湧水で育てられていること意味する
幻（げん）	非常に希少価値の高い商品であることを意味する
鱒（ます）	サーモンの代替品ではない「にじます」であることを意味する

富士養鱒場の降水量と湧水量

月	降水量(降水日数) : mm (日)		湧水量 : 万 t / 日	
	今年	過去平均*	今年	過去平均*
11	174 (11)	153 (6)	12.17	6.10
12	33 (5)	75 (5)	7.95	5.15
1	15 (3)	73 (6)	5.60	3.67

* 前年以前の 20 年間平均値

日誌

11 月	12 月	1 月
1～2 日 内水面研究開発会議（上田） 7 日 魚病技術部会（焼津） 7～8 日 関東東海ブロック水産業普及指導員研修会（桑名） 9 日 若手研究員交流会（県庁） 11 日 養鱒漁協味上げ魚試食会 14 日 研究要望調査聞き取り（裾野） 16～17 日 東海北陸内水面地域合同検討会（岐阜） 25 日 水産資源課 GAP 説明会（市内） 28 日 水産研究発表会（焼津） 29 日 水産振興審議会（県庁）	1～2 日 魚病症例研究会（三重） 6 日 ヒメマス発眼卵搬出（太田川） 9 日 漁業者交流大会（静岡） 13～14 日 内水面関係研究開発推進会議（宇都宮） 14 日 知財モデル打合せ（焼津） 15～16 アワビのキセノ保菌検査 20 日 競争的資金打合せ（愛知淡水） 20 日 知財モデル打合せ（焼津） 22 日 県かん水協会役員会（内浦） 23 日 アユ発眼卵放流（太田川）	5 日 ニジマス海面養殖試験（内浦） 16 日 知財モデル打合せ（焼津） 17～18 日 カワシオグサ研修（豊田市矢作川研究所） 19 日 にじます祭実行委員会（市内） 20 日 養殖衛生研究報告会（東京） 24 日 養鱒技術協議会理事会（東京） 25 日 養鱒研修会（市内） 26～27 日 アユ疾病研究部会（栃木） 30 日 ヒラメ卵 VNN 検査
< 視察見学対応 > 1 日 富士宮二中（4 名） 2 日 太田川漁協（10 名） 10 日 韓国栄州市長ほか（8 名） 22 日 藤枝市統計調査員（22 名）	< 視察見学対応 > 8 日 稲子小学校（10 名）	< 視察見学対応 > 13 日 黒田小学校来（108 名）